

令和3年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月24日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒自ら課題を設定し、課題解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る</p> <p>②グローバル化が進む社会で活躍できる生徒の資質・能力の育成を図る。</p>	<p>①・生徒がICT機器を活用して主体的・効率的に学習できる環境を整備し、生徒の多様な学びを支援する。 ・生徒の進路実現のために、より高度な授業実践をめざし、授業改善を進める。</p> <p>②多くの生徒がグローバル教育を受けることのできる場面の充実を図る。</p>	<p>①・教員対象の校内ICT研修を実施し、ICT活用の授業の支援を行う。 ・授業見学週間を設定し、研究授業を行うとともに、横国大との連携を活用し授業力を向上させる。</p> <p>②オンラインでの海外学校交流や専門学校の留学生との交流、外部講師を招いての講義などを実施する。</p>	<p>①・教員対象の校内ICT研修を実施したか。ICTを活用した授業が増えたか。 ・授業見学週間で全教員が授業見学を行ったか、満足度が70%を超えたか。横国大との連携ができたか。</p> <p>②国内での新たなグローバル教育プログラムを実践できたか、また、様々な異文化交流を通して世界に対する興味関心を高め、グローバルな視点を育むことができたか。</p>	<p>①・オンライン授業に向けた職員研修を実施し、試行日及び分散登校期間に実践した。 ・前期授業見学週間を実施し、教員85%が他教科の授業を含め見学した。</p> <p>②夏季休業中、3日間オンライン海外学校交流を実施し生徒8名が参加した。また、1年生全員がオンラインで海外の学生と交流をもった。後期実施の留学生との交流、外部講師を招いての講義なども予定通り実施できた。</p>	<p>①・分散登校期間に実践したオンライン授業の成果と課題を分析して今後にかかす。 ・後期は横国大との連携した研究授業もあるので、より充実させる。</p> <p>②オンライン交流は次年度も引き続き実施するため、実施日や実施方法を検討し、参加人数を増やす。</p>	<p>・双方向授業の様子はとても良い。特に留学生をサポートする生徒の様子が素晴らしくて印象的であった。 ・皆で協議をしながら授業を作っていく雰囲気はとても良い。板書をさせて問いを考えていく授業は特に良かった。</p>	<p>①全職員がGoogleClassroomを活用したリモート授業や課題配信等を行えるようになった。令和4年度より始まる1人1台PCの導入に伴い、ICT機器をより効果的に活用する授業内容の精選や教員のスキル向上を目指す。 ②オンライン交流等を行うノウハウを多くの職員に広め、様々な交流の頻度を高める。</p>	<p>①校内の通信環境の改善などICT機器の効果的な活用に向けて、施設面での問題解決を図る。また、効果的な教材やアプリ等を精選し、ICT機器を活用した授業の質を高める。</p> <p>②生徒の国際感覚を磨くためにも、多様な国や地域の人々との交流機会を増やす。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性やコミュニケーション能力、主体的に行動できる人格の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に活動できるよう学校行事や委員会等を支援する。</p> <p>②生徒一人ひとりに係わる職員との連携を深め、生徒理解に努める。また、感染症対策についての正しい知識を身に付け、健康で安全な学校生活を送れるようにサポートする。</p>	<p>①感染症拡大防止策を含めて、生徒が主体的に学校行事を企画し活動できるよう委員会等を支援する。</p> <p>②健康に関する情報を定期的に発信し、正しい知識を身に付けさせる。また、健康観察等を通して、不安のある生徒に声かけを行う。生徒理解については全職員で周知できるように、細かく情報交換を行う。</p>	<p>①生徒が感染症対策を意識して学校行事を企画できたか、生徒が主体的に活動できる場面が増えたか。</p> <p>②課題のある生徒に対して情報を共有し、適切な生徒支援ができたか。また、健康観察等を通じて実態を把握し、学級通信や「ほけんだより」などで、健康的な生活のサポートができたか。</p>	<p>①感染症対策について、各行事の委員会を中心に策定した。生徒を主体にした体育祭、文化祭の企画・運営が実施できた。</p> <p>②課題のある生徒について、学年・グループ・SC・管理職で情報を共有した。また、健康観察を毎日確認し、適宜対応を行った。「ほけんだより」は、ワクチンの副反応について等トピックに合わせて都度発行できた。</p>	<p>①後期に実施予定の学校行事についても、生徒主体の企画・運営を行う。</p> <p>②課題のある生徒について、全職員への周知が必要な生徒の共有方法を検討する。消毒や黙食などの感染症防止対策をより効果的に行う方法を検討する。</p>	<p>・「生活に関するアンケート」等を活用して、生徒の意見や要望を教職員全体で共有し、各グループ等で学校行事等に反映させてほしい。</p>	<p>①行事等で生徒が主体的に活動する場面が増え、教員の指示に頼らなくなった。 ②担任とスクールカウンセラー、養護教諭、教育相談担当等との情報共有が促進されたことで、生徒が抱える問題に様々な視点からアプローチできるようになってきた。</p>	<p>①本校の伝統を受け継ぎつつも、新たにクリエイティブなものを作り出す姿勢を生み出すような土壌を作れるよう模索する。</p> <p>②より一層強固な情報共有体制を構築するとともに、SSW等を活用した外部機関との連携を図る。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月18日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現をサポートする。	① 探究活動等を通して、キャリア教育を充実させ、進路に対する意識を高める。 ② 授業で培った基礎力をもとに、スタディショップ、Hi-ゼミ、校内模試等で思考力や応用力などの育成に努める。	① 先輩セミナーや模擬授業を通して、進路につながる職業・学問への理解を深め、進路に対する目標を明確化する。 ② ・授業で基礎力を養うとともに、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。 ・Hi-ゼミにおいてはハイレベルな学習スキルを身に付けさせ、応用力育成に努める。 ・校内模試では、振り返りを充実させることで、より深い学びのサポートを行う。	① 自分の将来の職業・学びに対する目標が持てるようになったか。 ② ・中学生の時よりも思考力・判断力・表現力を高めることができたかと実感する生徒の割合が90%を超えたか。 ・校内模試において国数英の学年平均偏差値が55を超えたか。また、国数英全体の偏差値60を超える生徒が、各学年50名以上になったか。 ・受験結果において、国公立大学現役合格者40名以上、早慶上理35名以上、GMARCH160名以上を達成できたか。	① キャリアパスポート・先輩セミナー等、あらゆる場面を通して、進路に関する情報を提供できた。 ② 授業において基礎基本の定着をはかるとともに、Hi-ゼミで活用力の伸長を行い、模試や定期試験で達成状況を明確にすることができた。	① 提供した情報をもとに、特に1・2年では将来の進路を深く考える機会を与え、第1希望宣言につなげていく。 ② 各自の達成状況をもとに次なる学習目標につなげていく手立てを講じる必要がある。	・伝統校としての長所を全職員で再認識し、生徒と積極的に関わりながら生徒の個性や自主性・主体性の伸長を企図する取組を行ってほしい。 ・高みを目指す進路指導の在り方を模索してほしい。	・Hi-ゼミの成果は上がっており、生徒のニーズと期待感も上昇した。今後はさらに内容の精選と向上に取り組むよう、学校全体で盛り上げていく。 ・早稲田大・慶応大・上智大・東京理科大学の進学率は大きく上昇し、生徒の第一希望の進路実現に向けての意識は上がってきている。	・Hi-ゼミやスタディショップの内容や実施形態を精選し、より多くの講座を開講できるようにする。 ・校外模試の有効な活用方法を模索し、生徒の学力向上のみならず、受験に挑む体力と精神力の向上に向けた取組を行う。
4	地域等との協働	①PTAや地域との連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。	①PTAとの交流・連携事業について新たな取り組みを検討し、地域とともにある学校づくりを推進する。地域貢献活動や地域の他の学校との交流を推進する。	①コロナ禍におけるPTA活動が円滑に行われるよう新たなシステム作りを進め、体育祭、文化祭、交流活動、PTAボランティア活動の実施をサポートする。西区社会福祉協議会と連携し、地域貢献活動を行う。保土ヶ谷養護学校分教室と学校行事等を通して交流する。	①コロナ禍におけるPTA活動が円滑に行われるよう新たなシステム作りを進め、各活動実施のサポートをすることができたか。地域貢献活動の活性化を図ることができたか。保土ヶ谷養護学校分教室の生徒と交流できたか。	①感染拡大防止に配慮し、体育祭、文化祭等においてPTAボランティア活動を実施することができた。西口エリアマネジメント、西区社会福祉協議会と連携して地域貢献活動を実施することができた。体育祭において保土ヶ谷養護学校分教室の生徒と一緒に競技を通して交流できた。	①緊急事態宣言中の活動もできるだけ可能になるよう、システム作りを進める。感染症対策を徹底して行い、地域との連携事業を推進していく。	・PTAや同窓会との連携により、様々な分野で活躍する大人の話聞く機会を提供し、生徒の将来に対する意識を刺激する。 ・西口商店街は生徒との交流が励みになっている。	・地域貢献活動は色々な団体の協力を得て実施できているので、その関係性を大切にしつつ継続して実施できるようにしたい。 ・コロナ禍であっても可能な限り生徒と地域が関われる機会を確保していく。	・地域貢献活動については活動内容を精査し、様々な取組に生徒が関われるように調整していきたい。 ・地域からの情報をいち早くキャッチする体制を整え、その取り組みを組織的に実施できるように準備する。
5	学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整える。 ②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。	①大規模災害に備え、防災マニュアルを見直す。職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②教員の業務分担や勤務時間を把握し、業務の均分化を推進し、働き方改革をより一層推し進める。	①・大地震を想定して、生徒自身で周りの危険箇所を探り、情報を共有する。 ・横浜市との協定細則に基づく避難所運営のマニュアルを整備する。 ②勤務時間管理システムを活用することで、時間外労働の状況を把握し、時間外労働時間の減少に努める。	①・生徒自身が、周辺の危険箇所を理解できたか。 ・補助的避難所の避難所運営マニュアルを教員に周知できたか。 ②業務に取り組む充実度や満足度を面談等により判断し、充実度、満足度の高い教員の割合を70%以上とすることができたか。	①生徒自身に津波の危険性を周知し理解を深めさせた。 ②・勤務時間管理システムを活用し教職員への声掛けを毎月行った。 ・ストレスチェックで80%の教職員がノンストレス又は低ストレスという結果になった。	①補助的避難所運営マニュアルの策定を近隣自治会と共に進めて作る。 ②業務の均分化につながる校内人事を進める。	・帰宅困難者一時滞在施設としての機能を保持し、円滑な運営ができるように準備してほしい。 ・防災減災勉強会は今後も続けるので、引き続き協力を願う。	・帰宅困難者一時滞在施設運営マニュアルの策定ができたことで、学校と地域との役割分担が明確になった。 ・業務内容の精選に努め、一部の教員に業務が集中しないように幅広く情報収集に努めた。	・自治会が行う防災減災勉強会等には参加して、情報を共有し地域との役割分担を明確化する。 ・全職員が防災マニュアルに沿った対応ができるように確認する。